

「大人のディスレクシアの困難さ、ITを使ったソリューション」

特定非営利活動法人 エッジ
柴田 章弘 氏、村松 洋一氏、
明星大学 学生支援センター
榎本 達彦氏

榎本／よろしくお願ひします。

明星大学で教員をしています。

エッジと、後でお話が出てくると思いますが、DX 会と、ここ2年半くらいお付き合いがあります。DX 会は成人の当事者方と出会う会ということです。

そこで最近ではワークショップやファシリテーションなどをやっています。

なぜここに僕が急にきたかという話も後に出てくると思います。

普段 DC 会でしている、トークという形で話ができればと思っています。

よろしくお願ひします。

(資料1)

柴田／こんにちは。NPO 法人 エッジ 事務局の柴田です。

そんなに堅く考えないでください。肩の力を抜いて。マイク？あ、落ちてた。

失礼しました。

柴田です。

私は、ディスレクシア当事者ですが、実は、事務局で仕事をしています。

やっていることは、ニュースレターの編集、メルマガの編集、DX 会の世話役、それから、もう2年になりますが、IT を使って、IT と言っても、たいしたものではないのですが、インターネットラジオという、放送番組を作って放送しています。

私はディスレクシアとして、エッジに来るまでどう考えていたかという、どうしても、自分の悪いところ、欠点にばかり目が行って、それを直したいと考えていました。

でも、いくらやっても直らない。

それより、自分の欠点は欠点でも、明らかにしてさらしてしまおう。

その代わり、自分には逆にいいところがある。これを使って、エッジに来て 5 年くらい経ちますが、その方針で働いています。

本日は、IBM さんに、こんなところでお話させていただき、少しあがっています。

どうもありがとうございます。

村松／よろしくお願ひします。村松です。

自分は、さっき藤堂さんが説明してくれたような読み書き困難があります。3年前ぐらいに病院で診てもらったら、細かいことになりませんが僕の場合は、短期記憶が先天的に少し弱いと診断されました。

例えば、初めて見た電話番号をみて、電話をかける時、普通の人ならば、何桁かを見てかけますが、僕は1字1字何回も見て掛けないといけないので、非常にしんどい。それが、短期記憶の障害だと思います。

本を読む時なども、小学校の時からも音読が全然できなくて。そういうことを踏まえて、いろいろ話していきたいと思います。

NPO エッジさんと知り合いになったのは、・・・以前はゲーム会社に勤めていたのですが、その時に、ちょうどたまたま事務所が近くでした。

そういうのがあるということが調べたら出てきました。

歩いて行って、読み書き困難についての相談などを受けてもらって、今日に至っています。

小学校の時にはこういうことを考えていたとか、そういう話をいろいろしていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

榎本／では、お二人が日常生活でどう困っていたり、どういうふうに人生を楽しんでいるかという話をさせていただきます。

今、簡単にこんな困難があると話していただきましたが、柴田さん、日常的に仕事や生活をしていて、具体的に困難を感じるのはどうことですか。

柴田／私の場合には、記憶力があまりよくありません。

どうしても、電話の仕事がありまして。

すると、かかってきた時の電話番号もそうですが、誰からかかってきたか、忘れてしまうんです。メモをとっているつもりですが、その漢字が間違っていたりして、結局は、仕事にならなかつたりします。

ですから、これって、ひょっとしたら、そういう障害なのかな？と後で思うのですが。

みんなに助けってもらって、「こういう人じゃないか」と後で言われて、「ああ、そうか」と答えたりします。あてずっぽうなときもありますが、それでも、何とか助けられています。

それから、人の顔と名前が覚えられません。

お客様が来るんですね、NPO ですから。

後で「どなただった？」と聞かれ「太った人」とか、「メガネかけてた」とか。

女性だった、男性だったまでは分かるんですが、それ以上は覚えていないんです。名刺をもらっても、なくしてしまったりして、私の場合は、記憶力で非常に困っています。

榎本／助けてもらうというのは、具体的にどんな助けですか？

柴田／助けてもらう時は、何かしら私が覚えている断片的ヒントですね、例えば、「太った人」とか「年取った人」などそういう形で。私はこういうところが弱いというのを周りが分かっているので、それで助けてくれるという日常です。

榎本／周りの人に、柴田さんはこういうことができないと、知ってもらうということですね。

柴田／以前は直そうと思ったんですね、でもここまで来ると開き直ってしまって、「これは出来ません」と皆さんに宣告したほうが、逆に仕事はやりやすいと思います。

榎本／村松君、生活していて感じる困難の具体例を話してください。

村松／見た目より、普通の人が出来ることが、ほとんどできないんじゃないかというくらい、結構困難があります。

文字は最終的にはわかるんですが、極端に遅いです。認識するまでにすごく時間がかかります。例えば、普通免許がありますが、その意味が分からなくて。運転するじゃないですか。みんなは標識を見て、「どこ行き」だと分かる。あれが見えて、通り過ぎてしまうまでに認識しなくてはいけない。

榎本／バスが来て「渋谷行き」とか？

村松／そうです、そうです。免許は持ってないですが、他の人は、ああいうのを認識しながらよくできるなと思います。

普通の人はそのあたりの当たり前と言いますが。

榎本／バスに乗る時、電車に乗る時はどうしていますか？

村松／結構、(心臓が)バクバクで毎回焦る。

一生懸命確認して、通り過ぎちゃったときはしょうがないので、行ったり来たりして、ちゃんとたどり着くことが難しいこともある。

榎本／今日ここに来るときはどうでした？

村松／今日はなんとなく判って来られたけど、一步間違えたら、南口、北口も分からないし。例えば、友達と待ち合わせするのに、南口だと思い込んで北口でズーッと探していて 30 分ぐらい遅れちゃったりとか。結構そういうのがあります。

榎本／そういう村松君を他の人はどういう人と見ているのですか。

村松／人の言うことを気にしていたら、どうしようもなく、收拾がつかないんで。だから自分の場合、「こういう人だよ」と。自分で苦労して直そうとかじゃなくて。「あ、ちょっとお願いします」みたいな感じで。今日も榎本さんに 1 時間前ぐらいに、「段取りが苦手なんで、司会をお願いします」と本当にさっき頼んだぐらい、図々しいですが。

榎本／僕もビックリしてバクバクしたんですが。

村松／ほんと、図々しいですが、「こうなんだよ」とアピールして、やせ我慢しないで頼みます。

榎本／DX 会は 2 か月に 1 回、4 時～6 時くらいで、2 時間くらいやっています。集合時間というのは、普通は「4 時」とか出しますが、DX 会では「3～4 時」という表記にします。3 時を目途にしておかないと、違うバスに乗ってどっか行っちゃったりするんで。グルーッと回って 1 時間後に着くとかね。それが普通の状態です。最初はちょっとびっくりしましたが。

村松／前に勤めたところは、六本木で、前にエッジさんもそこに事務所がありました。六本木の交差点からすごく近いのですが、何回も通っているのですが、毎回間違えて、帰りも間違えるくらいです。「これはしょうがない」と焦らないで、行ったり来たりしています。

榎本／基本的には、文字が多いんですか？あと記憶ですか。

柴田／文字を正確に覚えていないんです。これは、記憶のうちに入ると思うんですが、部分的にへんに覚えていたりします。それって大人になっても直してくれない、というのがあって、そのまま覚えているんで

す。それは、実は他の方は分かっている、「あいつしょうがないな」と、教えてくれなかったということもあります。

社会に出て、地位が上がるというか、責任のあるポジションになると、人が教えてくれなかったりします。

そういうのは、私としても恥ずかしい思いをします。

ですから、初めから、そういうことがあっても当たり前だと思っていれば、そんなに気にしないのですが、みんな、分かっているそのまま教えてくれないということが、結構ありました。

榎本／具体的にエッジで柴田さんが仕事をしていて、教育の場と仕事の場での違いについて、何かありますか？こういう支援ということで。

柴田／教育の場では、細かいことばかり、例えば書き順とか、「はね」とか、言われました。私は全部それを言われてきました。

実務の世界でしたら、結構、省略して書いたりします。

むしろそれは大目に見ていただきたい、というのが実際の気持ちです。教育の面でも、日本の場合は、何でも正確に、と考えますよね。豊臣秀吉の漢字を全部書けないといけない。

教育の世界だと、世界史が異常に苦手でした。

なぜ苦手か。中国史は全部漢字。ところが全然漢字が書けず、点数が取れませんでした、分かっているも。

だけど、実務の世界では、最近 IT 機器の発達で、うまい具合に、変換してくれますね。時々変な変換がありますが、ちゃんと変換してくれるので、逆にそんなに正確に覚えなくていいんじゃないかな、と思ってます。

正確に覚えるという教育ではなく、「だいたいわかればいい」くらいに、少し考えてくれないでしょうかね。

榎本／DX 会は今年に入って、僕は大学で初年度教育とかキャリア教育をやっているの、就職に役立つ内容ということで、自己表現や自己探求というのをやり始めました。例えば紙に、自分の強みを書いてみようという、大抵弱々しい字で1行ぐらい書いて終わってしまいます。

そのうち、字だけではなく、絵でもいいと言い出したんです。そうしたら、数人の参加者がバーツと絵が描を描き始めたのです。

その後、今日の振り返りをしよう大きなホワイトボードに自由に書いてください、といったら絵や字が目一杯書かれました。

本当に僕がそこで学んだなと思います。

普段自己表現という時に、文字とか、面接で言えば言葉が当たり前と思って島 y のです。でも、表現方法は他にもあるということを彼らから学んだと思います。

こんな支援が必要ということで、柴田さんと松村君が写真を撮ってきてくれています。それを見ながらお話ししましょうか

(資料2)

まず「読み」ですね。正確な読み方を知りたい。

柴田／聞き間違いや誤写が多いので、その場で正してほしい。

例えば、人の名前なんかでは結構ありますね。

実務の世界で困るのは。

ふりがなも振っていただかないと、あとで失礼にあたります。

こういうのは、ちょっと支援してくださると、そんなに苦労しません。お互い、そこに注意しあうと、結構スムーズに仕事ができると思います。

単語の切れ目を離して欲しいというのは村松さん。

村松／ぼくは、読めない分、気になるんですね。

自分で思ったことを書こうとすると、そこそこ書けますが、自分だったら、平仮名の次に平仮名の単語が来たりすると、すごい気になってしまう。

そこをていねいに、切り離してあれば、そこそこ、すんなり読めたりします。

榎本／具体的には？平仮名、平仮名と続いた場合、どんなことが必要なんですか？

村松／少しスペースを取ったり。あとは行間とか。

榎本／次の写真を見せていただけますか。

(資料3)

柴田／これは、リーディング・ペンと言って、主に英語ですが、スペルをなぞると、音が出ます。

英語の場合はスペル通りに読めない単語が結構あります。

そういうものも、学生時代、ちゃんと勉強していればよかったです。やったつもりですが、やはり間違っ覚えていたりします。

そういう時にちょっと音を出してもらえれば、非常に支援になります。

ということで、これを出しました。

(資料4)

これは電子辞書です。スグレモノだと思うのは最近では手で書いて入力できたりします。

文字入力ができるので、これがあると、非常にわかりやすいです。大人になっても、漢字を読めないってことは結構あるんです。

変に読んでしまって苦労するという方いらっしゃいますよね。

そういうことがあって、困りますが、この電子辞書があると、いくらか助けになると。

榎本／具体的には、どういう場面ですか？

柴田／一番の例は、読み方が分からなくて、その漢字だけがある。

逆に、そういうのは、漢和辞典で引くと時間がかかります。読み方がわからないので。ならば、書き入力を入れてしまえば、その分だけ時間がかからなくてすむ。

榎本／突っ込んで申し訳ないのですが、読み方が分からないというのは、実は誰でもありますよね。例えば、ディスレクシアに限って、ということは何かありますか？

柴田／ディスレクシアに限ってというわけじゃないかもしれませんが。ディスレクシアの場合は、それが多んじゃないでしょうかね。

村松／そもそも使い方で、つまづくと思います。

ゲームの会社において、もちろんパソコンを最初に使うのは当たり前なんですが、全然使い方が最初わからなくて。

今でも、他の人がいろいろソフトとかを使いますが、未だに、よくわからなくて。

それぐらい、入り口が狭い。ただ、慣れればかなりいけると思うのですが。

ルールが分からない。

柴田／マニュアルが読めないというのもディスレクシアの特徴だと思います。

すごくまとめてあれば、読みやすい、と皆さん、言います。

ノートがキレイに取れる人は成績がいいというのは、嘘だと思いますね。

どんなにキレイにマニュアルが書いてあっても、それが理解できない。

前のほうを読んで記憶したことを、読んでいるうちに、忘れてしまうんですね。

だから、理路整然とキレイにノートを取ってあるのが分かるというのは、それは頭が良いんじゃないかなと私は思います。

榎本／こういうキーを使うと、こういう機能だというのが、文字で書かれていても使えないと。

村松／どこに書いてあるのかな、とか、どこを見れば良いのかなと。
柴田さんとよく話すのが、パチンコとか、競馬とかあるじゃないですか。いっさいわからないから、ギャンブルにははまらない。

榎本／そういうメリットはある。

柴田／保険に入らないのもそれで。住宅ローンとかも、意味が分からないからやめとこう、とか。

村松／うまい話とかは、いい、いい、みたいな。そういうのに苦労するなら、やっぱやめとけばよかったとか。

榎本／文章で説明してあっても、なかなか記憶が続かないということも含めて、理解ができないから、ちょっとやめておこうという感じになるの？

村松／そうですね。後回しに。

受験とかの時期、中学から高校とか、最初は勉強ができないのですが、やり方とかコツを学べば、一気にできる。

勉強はやり方さえわかっしまえば、できるんです。

でも、実際に、高校に行ってとかが、しんどい。願書とか書かないといけないのが、しんどい。

受験とかテストより、そういう、ちょっとやらなければいけない手続きとか、未だに意味がわかりません。はんこ、これは押すの？押さないの？とか、知り合いとかに、教えてもらって、いまだに役場に書類をもらう時など、人についていってもらっています。その場でやらなくてはいけないのは大変。そういうのは「わからないから教えて」、とできる人に任せる。

(資料5)

榎本／次に行きましょう。

「書き」のほうですね。

柴田／字を書くのが遅いので、書かなくても良い工夫を。

これ、皆さん、お笑いになるかもしれませんが、黒板を写すのが異常に遅いんですね。下を向いて書いているうちに忘れてしまう。

やっているうちに疲れてしまうというのがありますし、周りのペースに合わない。

どんどん先に進められて、そのうち、こっちも疲れて集中力が続かなくなる。

それで、私たちの宣伝になりますが、ニュース・レターを発行しています。4か月に1回、作っています。編集長権限で考えて、字を減らしています。

情報を知らせたい時、字が多くなってしまいます。

やたら字が多くなると字が小さくなってしまいます。

それでなくても、ディスレクシアを扱っているのですから、いかに字を少なくするか、そうすれば皆さんに伝わると思います。

ですから、うちのブログを見ていただくと分かりますが、1つの話に1つの絵を入れます。

字だけでは分からないところを、絵で補う。

大人の絵本、というのがいいことかなと思います。

大人になったら、絵なんかない、文字だけの本を読むべき、ではなく、字数を少なくして、その分、映像でも入れたほうが、よく伝わるのではないか。

それはディスレクシアの人だけでなく、他の人にも伝わるのでは、と最近思います。

そこがポイントです。

2つ目。

書いた字が汚くて、本人すら読めない。

これは、年中あります。

字が汚くて、これはディスレクシアの特徴かも知れませんが、同じ大きさを書けないんですよ。

一定の大きさを書けていれば、長くなっても読めるかもしれないですが、ある漢字を大きく書いてしまったり、平仮名を小さく書いてしまったりして、うまくつながらないんですよ。汚く書いてしまう。

年中消しゴムを使います。

「あ、間違えちゃった」と、消しゴムを使うので、紙自体が汚くなり、後で自分が見ても読めなくなることが、しばしば起きます。

最近はずるくなって、字なんか書かないんです。

特徴があったら、絵を描いておきます。

あとで記憶をたどったほうが、文字で書くより覚えていたりしました。

できれば、字を書かなくてもいい工夫をしたほうが、特にディスレクシアの人にはいいと思います。

村松／やっぱり、画像などで説明してもらえるとありがたいです。写真でもいいですが。字だけだと、ひたすらズラーツとなっているから、どこを讀んでいいか。

榎本／これ(パワーポイントの資料)は？

村松／讀んだかなあ、それすら。

書くことに関してのアレですよ。

これぐらいならギリギリ分かりますが。

行とかも、飛ばしたり、何回も同じ所を讀んでしまう。

行を空けてもらったり、画像があればメリハリがあって字が分散されるから。

(資料6)

榎本／写真をお願いします。

柴田／字の汚い人にとっては、タッチタイピングは有り難いですね。

変換してくれますから、漢字を知らなくても変換してくれる。

でも、1つ問題があります。速く打てない。

私の仕事では、時間の制約はありませんが、就職試験などでは、1分間に何字打てないと、仕事にならないと紹介もしてくれない。

これは、どんなに努力しても、タッチタイピングが速くならなかったもので、確かにきれいにはなりますが、それを仕事にすることはできないと感じました。

村松さんはどう？

村松／全然だめです。

最初から諦めて、得意な人にやってもらうほうが。

パソコンは使っていますが、すぐに目が疲れちゃうし。

榎本／僕は柴田さんとの連絡はメールだけど、松村君はどしているの？

村松／直接会いに行く。

榎本／江戸時代の話だね。

村松／電話でも、最初にしゃべることを、頭の中で「榎本さんがこう言ったら、こういう、」というのをあらかじめ考えてから電話しないと、「あ・あ・あ・あ」みたいな、へんに

なっちゃいます。

電話は極力しないです。

メールも、「今日行きます」「行きません」ぐらいに極端です。

(資料7)

柴田／特に「聞く」で苦労するのは、数字の聞き取りが苦手です。

電話番号を聞くのは非常に苦手です。

極力、電話で「番号をこれから言います」と言われると、書きますが、間違ってしまったりするのです。

特に数字に関しては、聞くのは避けるようにしてます。

聞いた後、できれば書いておいて下さい、と言ってます。

100万とか言われると、マルの数が分からなくなったりするので。

手で書けば、一応100万は書けますが。

数字を聞く時は、支援として、必ず書いていただくようにしていますが、電話の場合はそれが出来ず、苦手ということです。

聞き間違いが多いので、理解しているか確認できない。

それが非常に多いですね、聞き間違い。

時間なんかもそうですが、場所も勘違いしたりする。

今回、IBMさんのこのビルに来るのにも、昨日来るまでは、茅場町で降りればいいかな、人形町？どっちだろう、「～町」ってつくのが、って思っていました。

昨日、IBMのスタッフの人にタクシーで連れてきていただき、初めて「水天宮前だ」と。

連れてきていただかなかっただら、今日来られなかったかも知れません。

それぐらい、情報が多かったです、もらった情報が。

どこの駅に降りるか、3つぐらいあったので、どれにしていればいいか分からなくなる。

ちゃんとパソコンで調べればいいんですが、調べても1日すると忘れちゃう。

コピーしておいても、それをなくしてしまう。

今回もレジュメを作ったんですが、必ず3種類くらい作っておかないと、1種類ぐらい、どこかに飛ばしてしまうこともあります。

(資料8)

これ、なぜ出したかというと。

聞く時、集中力の問題が出て来ます。

私の場合、集中力が続かないんです。

村松君もどうですか？

村松／全然。

一生懸命聞きたい、その人から情報がほしいのに、いつのまにか、違うことを考えちゃったり、集中という意味が分からないぐらい。

小さいときから、特に先生の話なんか、理解したためしがなくて、1回聞いただけじゃ分からなくて。

だから、だいたいのニュアンスでこの人は自慢話してるなと思ったら、「あ、スゴイっすね」と返す。

勘でとらえてる。

電話がヤバイ、何を言ってるか分からなくなっちゃうんで。

柴田／もう1つこれを出したのは、学校もそうですが、職場では、結構、周りで話をされて、雑音がうるさいんです。

特にうちなんかは、すごく狭いところで、いろいろな団体が入っているので、電話やなんかは頻繁に掛かってきます。

うちの団体とは関係ない話をされたりします。

これがあると、仕事に集中したい時に、音を消せる、すぐれたイヤホンですが、これで集中できる。

それでもしばらくすると眠くなってしまうんです。

せいぜい10分か15分ですね。

特殊なイヤホンです。音を消すという、こういうのがあると、うるさい職場でも、我々にとって、すごい支援になりますね。

村松／人の声は結構聞こえるんですね。

柴田／人の声はね。

村松／工事の音などの雑音を消してくれるんですね。

オレは人の声が気になるほうなので、逆に、効果は使ってみないと分からないですね。

榎本／人の声が気になる人の場合、電車の中でおしゃべりはできないのかな。

村松／いや、電車の中のほうが、集中して読めたりします。電車の中の話はできなくはないです。

榎本／

電車の中で話しているとまわりの人の声が聞こえてくるので、話がわからなくなる人がいますよね。

僕たちは、電車の中でも、相手の声だけを聞いていますが、そういう人はちょっと得意じゃないみたいです。

村松／電車の中で、酔っぱらいのサラリーマンがガーガー話していたりすると、自分が一生懸命読んでいたりすると、辞めてしまいます。

人によって、男の人の声って振動に特徴があるんでしょうか。

(資料9)

柴田／IC レコーダーとかが出てきました。

聞き逃しということが結構ありますので、大事だと思ったら、極力録音しています。

それが身近にできるようになりました。

こういう工夫をすると、我々には大きい支援になると思います。

村松／携帯電話でもできますね。

柴田／今では携帯電話にもついていますね。

こういうことがあれば、例えば、学生さんでも、授業で使えます。

ただ録音していねむりしているのはいけませんがね。

村松／会社でも、上司とかが悪口言ってたら、これを使うと、あまり強く出てこられないですよ。それで一応買いましたよ。

でも使い方がわからないので。

柴田／我々としては、マニュアルが難しい。

村松／なれば出来ると思いますけど。もしかすると、携帯電話の録音のほうが使え
るかもしれない。

(資料10)

柴田／記憶についてです。

我々2人に共通しているところで、記憶があまりよくないです。

記憶の悪い自慢ではありませんが、ディスレクシアは、読み書きにばかり注目されていますが、記憶があまり良くないというのも1つ入れてほしいと思っていたので、この話を持ってきました。

人の名前、住所、電話番号などをすぐ忘れるので、すぐ思い出す工夫が欲しい。
ということで、書き物にするなり、音で残すなり。
住所なども、できれば地図を作って。
問題になるのは、地図も読めない。どうですか。
これも、脳の関係かどうか分かりませんが。

村松／多いですね。

柴田／地図が読めなくて、我々の仲間は、初めての場所は非常に怖いんです。
ですから、時間を長めに取るのは、ちゃんとたどり着けないからなんです。地図がうまく読めなくて。

村松／ちゃんとプリントアウトして、持って歩いて、地下鉄の出口から、その通り出ているのに、「あれ、どこなんだろう」って感じです。

榎本／案内の時に、写真を使うのはどうですか。
水天宮の駅の改札と階段が写っていて、上に出たところの風景が写っていて、コンビニがあって、というのを順番にやって地図を作っていますよね。

柴田／そうですね。エッジの事務室で、駅から、写真を撮って、絵地図を作りました。
これをつけると、たいがい間違えなくなりました。
よっぽどの人じゃない限り、あ、中には間違える人もいますが。
あの地図を作ると、見ながら喜んでいきますね。
「ここにあった」って。
画像で記憶できるということで、非常に良かったかなと思っています。
普通の平面上の地図では我々には読めないことがあります。
特に距離感がつかめないんですね。

村松／例えば、道って、人に聞いても、すごく親切に答えてくれる人がいますね。
逆に、そういう人だと、ものすごく忠実に、ここを右手に、左手に、この八百屋を曲がってとか言ってくれるんですが。
ちょっと待って、最初のところ、そこでいいから、ってなっちゃう。
最初のことを忘れちゃうので、最初だけ聞いて、またちょっと先に行ったら、そこで聞くという感じで。なるべく簡潔に教えてほしい。

榎本／その辺、柴田さんと村松さんでは違いがあるよね。

柴田／うん、ちょっとね、頭の構造違うかな。人それぞれで。
次の、あまり長い文章だと読んでいるうちに前が忘れてしまいというのがあります。
直前の情報がすぐに思い出せない。
これはさっき言ったことです。

最後、集中力が続かないので、情報量を少なくするか、休憩を入れる工夫が欲しい。
詰めて仕事をしていると、非常に疲れてきて、その疲れ方は、普通の人より疲れるの
ではないかなと思います。
それが分かったのは、学生時代に授業を聞いていても、授業に集中できないんです。
例えば書くことだけに集中すると、書くことだけで疲れてしまう。
テキストを見る段階で疲れてしまうとか。
全部、均等に力を使って、平均して物事をやることができない。
だから、どこかしら、欠点があって、それを補うだけの力がなかったので、すごく疲れ
ます。

(資料11)

榎本／写真お願いします。

柴田／ですから、記憶を一番助けてくれるのはカメラだと思います。
ホワイトボードとかに、今回は書いていませんが、写真を撮って行って、それを残すと
いう方法がいいと思います。
我々のように、書くのが得意でない場合は、はじめからデジカメで撮ってしまう。
実は、3年前、スウェーデンのストックホルムの、あるディスレクシアの支援協会に行
ったことがあります。
記憶力が得意ではない人は、写真を撮って、携帯に入れておいて、分からなくなっ
たら携帯を開いて、写真を見ると情報が分かる。
こういう工夫をしたら、と言われました。
それを今でも使ってます。
そうすると、無理に書かなくてもいいなど。

村松／あまりそういうことが失礼だと思う人が少なくなるといい。

柴田／当たり前で。
苦手な人なんだなと、それを皆さんに分かっていただきたいなど。

榎本／柴田さんは小説を書きますよね。
長い文章を書くでしょう、そういう時疲れない？

柴田／よく読んでいただくと分かると思いますが、書いているのは、会話文がほとんどなんです、実は長く書いていないんです。
ここで言っちゃいますが。文章として考えてないんですよ。
あれは言葉として書いているので、そのままなんですわね。

榎本／プロットとかストーリー、それは頭の中にあるんでしょ？
像、イメージとして動いていくわけですね。

柴田／イメージとして書いていると。
文章として考えてないんです。

榎本／ちょっと違うんですね、そこらへんが。
これまでの話に補足して支援について何かありますか？

柴田／そうですね。
できれば、そういうソフトが出来たなら、使い方をもっと、我々にわかりやすく教えていただきたい。

榎本／具体的には？

柴田／個人個人にあわせてやっていただくのがいいので。
IBM の機械なら、IBM さんが、いろんな所に支店を置いて、使いたい人に来てもらって、「こう使う」というのをレクチャーして欲しい。
ただポンと売ってしまっただけで「マニュアルを見て下さい」では、かなり使えない人は多いんじゃないかな、と勝手に思ってます。
ホントはもっと自分流に話を聞かせてもらいたいと思っても、聞かせてもらえないので、そのまま使えないで、放っておいている人が結構いるんじゃないかと思います。
お願いしたいと思っています。

榎本／村松さん、補足があれば。

村松／何でもいいと思うんですよ。
オレだけかもしれないですが、見た目が重要だと思います。ど派手に。

「分からないから」と(支援を)やっている所を、みんなに見てもらう。

榎本／自分を見せてしまう。

村松／この人、何をやっているんだろうと、見た目じゃ分からないから、知ってもらいきっかけになるかなと。

コソコソ分からないように、じゃなく。

(資料14)

榎本／障害的に見える部分をコソコソやるんじゃなく、ってことですね。

村松君は、イラストレーターで、ずっとその仕事をやってきて、今は仕事を失っています。そういう仕事探しているところですが。

これは DX 会のシンボルで、彼が描いたものです。

村松／イラストが得意なので。

真ん中が柴田さん、他の人も実は誰かになってる。

榎本さんなども増やしていきたいなと思っています。

榎本／イラストの仕事って具体的にどういう事を会社ではしていたの？。

村松／前はグラフィッカーですね。

たまにキャラクターデザインもやりましたが。

榎本／会社で仕事していた時のエピソードは？

村松／ゲームにはならないですが、働いてる他のヤツの似顔絵を化け物化して、遊んでいたら、部長とかが、結構気に入ってくれて、「オレのも描いてよ」なんて、変な人気が出て、そんな感じで遊んでいました。

榎本／仕事していて、苦労したことは？

村松／すぐ疲れるので。

絵ならまだいいかも知れないけど。

グラフィッカーと言っても、最初にどんなことしてみたいとか、人から口頭で言われたりして、それでクタクタになって疲れちゃう。

榎本／言葉や文字中心に会社が動くしね？

村松／そこをどう自分に持っていか、すぐ画面とか、疲れるから。
姿勢もすごく立派な椅子が用意されてて、それでもしんどいから、椅子をとっぱらって、
地べたというか、絨毯に直接でしたが、絨毯が好きじゃないので、ハンズで「折りたた
み畳」があったので、それを敷いて。
地べたに画面を置いて、いろいろやってみました。

榎本／周りから見たらどう見えたんだろうね？

村松／ありとあらゆる奇抜なことをやって。
例えば、机があった所に、炊飯器を横に置いて。
炊飯器はガスは要らないから、コンセントをつないで、ご飯以外のものを作る。
「炊飯器で何でも作る」というのが流行ってたじゃないですか。
パスタとかゆでたりして、会社で。
おいしい臭いをさせておいて、みんなが気にしすぎてやめてと言われて。

利き手が曖昧で、左手でマウスを使って、右手で開くかなとか考えて。
両方できるか試しにやってみたら時間が短縮できるかなと。
あとは、しんどいから、ソファを通販で買ってきて、疲れてきたら寝てとか。
オレの会社ではたまたま、ソファがなかったの。

榎本／ちょっと休むために自分でソファを買ったわけね。

村松／思いついたことを、そのままやっちゃって。
いろいろ言われました。

榎本／いろいろあるわけです。
柴田さん DX 会の話ですこししましょうか。

柴田／DX 会というのは、ディスレクシアの人々を勇気づけるということで、作りました。
実は、3年ぐらい前にイギリスのロンドンに行きました。
ロンドンにはアダルト・ディスレクシア・オーガニゼーションというのがありました。
そこで、会長と話をして、成人にもこういう団体があって、いいんじゃないかと。
日本にないなら、日本で作ろうと、私が中心となって、作りました。

これは2か月に1回、初めは、単に自分たちがどういうところで苦労しているか、困難さがあったか、という仲間意識で集まって、暗い話ばかりしていました。

来ると、自分はこれができない、あれができない、読めない、書けないとか、間違えるとか、こぼし話ばかりでした。

1~2回は、それを聞いて楽しく、お互いに傷の舐め合いで満足していましたが、そういうことをやっているうちに、暗くなってしまった。

どうしたらいいかということで、やっぱり楽しくなくては面白くないですね。

楽しくなるには、来る人が満足して、褒められるということが一番大事だったんです。

どんなくだらないことでもいいんです。

今日ちゃんと時間通りに来られた。

「偉い偉い」とみんなで拍手したり。

(資料15)

ホントに3歳の子どもができるようなことでも、褒めるんです。

これは、最初、バカにしているかなとも思ったのですが、やられているうちに、人間って面白いんですが、だんだん自信がついてくるんです。

ここへ来れば褒められる、気持ちがよくなる、そしてまた来るという循環ができてきました。

2か月に1回やっていたのですが、たいがいこういう会は3回やるとつぶれるのですが、4回目もあり、めでたく20回やっています。

4年間、2か月に1回やりながら、いろいろやっていました。

榎本／誰が来てもいいんですか？

柴田／最初は当事者、ディスレクシアとかでしたが、やっているうちに、支援者、関係者も来てくださって、それはそれで楽しくできますので、誰でも関心がある方、ホームページにも記載してあるので、ぜひ来てください。

榎本／村松君は参加者として、そこに行って、結構早いうちから参加していたじゃないですか。

それでDX会の雰囲気とかどうでした。

村松／最初討論みたいな感じだったんです。

今後どうあるべきか、とか、ディスレクシアを広めていくには？みたいな。

でも、俺、空気とか読まないんで、「飲みに行こうか」みたいな話をしてしまって、テン

ションがかなりポワンとした感じになってしまって、それが逆に、そうしたら、結構長続き。

柴田／そうですね。あまり難しい話をするよりもね。

最初は4~5人でしたね。多い時でも4~5人だったのです。

身内だけだったのですが、だんだん話が広がってきて、「この場に来ると自信がつく」。

それだけでもいいと思うんですね。

いい気分になると。

それだけを目指のようにして今やっていますが。

来た人が、最初は、悲痛な顔をしていても、帰る時に良い顔になってくれるというのは、見ていて私としても楽しいですね。

村松／自分よりひどい人がいるんだみたいな。

柴田／自信をもって行けるのね。

なんとかなるよと。そういう団体があっても良いと思うんです。

今は20人近くになってしまったんですね。

ですから、こういうことをやりながらだんだん…。

榎本／もう1つ、インターネットラジオの話は？

柴田／ネットラジオも、時間がないので詳しくは話せませんが。

聞いてもらえばいいということで。

いろいろな媒体がありますが、読ませる媒体が多かったんですね。

でも、私たちは読み書きに困難があるので、かなり難しいです。伝わらないんです。

いろいろと聞いてみたら、耳で聞くのなら何とかなるという人がいます。

最近、ブログにも「音声ブログ」が出てきました。

我々も、初めは、DX会の例会を全部録音して、ただ流していたんですが、それだと聞いてくれる人なんかいないんです。1時間半なんか流しても。

そうではなくて、本当に真面目に、誰かが台本を書いて、これとこれを絶対伝えるという目標を作りました。

村松君にも出ていただいて、番組らしい番組を作り、ちゃんとテーマ音楽までつけて、一作作りました。

それが7月にできました。

今度12月に、エッジのPR的なものなど、いろいろなものを入れて、第2作を作ります。

す。
皆さん、どうぞ聞いてください。
エッジのホームページに貼り付けてあります。

榎本／あと 30 秒ずつで終わりにしますので。
最後にひと言ずつ。

(資料12)

柴田／我々、DX 会がどういうわけか、知れ渡りまして、IBM さんから新しいソフトを作る時に、モニターの要請がありました。

当事者でなければわからないことが、いくらでもあります。

技術に素晴らしいものがあったても、やはり使ってみないとわからない。

それで、いろいろ実験に参加したのですが、非常に楽しかったです。

なぜかという、自分たちの意見が反映されるということは、やっつけて嬉しいし、やり甲斐もあります。

ここにいる村松君の他、6 人のメンバーがいて、自分なりに意見を言いながら。

一番最後だから一言言いますが、背景の色が換えられるというのは、非常に楽しかったです。

私の場合、白いものより、黄色いほうが読みやすい。

白い紙に書いてある字は読みにくくて、読み飛ばしたりします。

背景を黄色にしたら、理解力が急に上がりました。

それで、この機械は私としては、楽しかったです。

村松／僕は、ここにあるように、行間を広げてくれるのが、普通にパソコンにはそういう機能があるらしいですが、そういうのも知らないの、言われて、ああ、そういうのができるんだと思って。

IBM のでは、もっとすんなりできるので、すごいなと思いました。

また、読み上げてくれるというのは、すごくいいなと思った。

やはり、みんなにアピールできるものがあるといいなと思っていたので、素晴らしいと思いました。

榎本／ありがとうございました。まとめる気もあまりないのですが、いつも 3 人で話すのですが、こんな感じで、実態そのものです。

最初あがっていたのですが、いつもこんな感じでしゃべっているなというのを見ていただければと思いました。

1 つだけ気づいたことは、字がヘタとか、記憶が曖昧とかって、結局、ディスレクシアだ

けでなく、普通の人もあるな、ということを感じながら僕自身も話をしていました。
うまくお二人の話が引き出せたかどうか分かりませんが、どうもありがとうございました。